

このコンサートのテーマは「ヨーロッパのおどり」です。
思わず体を動かしたくなるような音楽や、
美しいバレエをたっぷりとお楽しみください。

飯田有抄(クラシック音楽ファシリテーター)



アレクサンドル・ボロディン
(1833～87)

- **ボロディン:**
オペラ『イーゴリ公』より「ダッタン人の踊り」
作曲者のボロディンは、ロシアの大地を思わせる力強い音楽を残しました。「ダッタン人の踊り」は、ボロディンの作った歌劇『イーゴリ公』の中の一曲です。主人公のイーゴリ公は国を守るために戦いますが、ケガをして敵国に捕まってしまう。しかし敵のダッタン人は、イーゴリ公に尊敬をこめて華やかに歌やダンスを披露します。「ダッタン人の踊り」はその場面の音楽です。

- **チャイコフスキー:**
バレエ『白鳥の湖』より「4羽の白鳥たちの踊り」

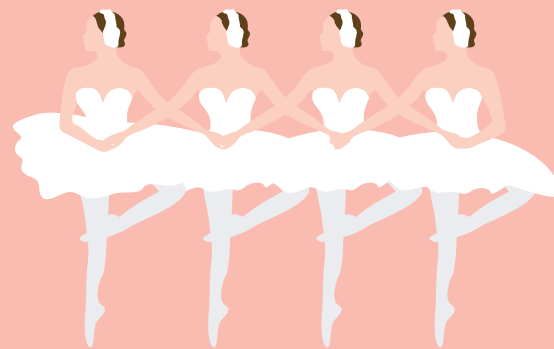
バレエ『白鳥の湖』は、ロシアの作曲家チャイコフスキーが作った傑作です。弾むようなリズムで奏でられるこの曲は、森の湖で王子さまが出会った白鳥たちのダンス・シーンの音楽です。白く美しい衣装をまとった4人のダンサーたちが手を取り合い、ぴったりと動きを合わせて踊ります。

- **チャイコフスキー:**
バレエ『眠りの森の美女』より
「青い鳥とフロリナ王女のパ・ド・ドゥーアダージョ」

悪い妖精に呪いをかけられ、永遠の眠りについたオーロラ姫。王子さまのキスだけが姫を眠りから覚ますことができました——そんなストーリーのバレエ『眠りの森の美女』も、チャイコフスキーが美しい音楽を手がけました。軽やかで優雅なこの場面は、オーロラ姫と王子の結婚式で踊られるお祝いのダンスです。



ピョートル・チャイコフスキー
(1840～1893)



- **J.シュトラウスII:**
春の声 Op.410

3拍子のリズムに合わせて踊られるワルツ。ウィーンの舞踏会で大人気となったワルツは、シュトラウスII世がもっとも得意とした音楽で、彼は「ワルツ王」と呼ばれていました。「春の声」は、結婚をしたばかりのシュトラウスII世が、幸せいっぱいの気持ちで作曲した華やかなワルツです。



ヨハン・シュトラウスII世
(1825～1899)



ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン
(1770～1827)

- **ベートーヴェン:**
交響曲第7番 イ長調 Op.92より 第2楽章

「響き」が「交わる」と書く交響曲は、オーケストラが主役となる音楽です。ベートーヴェンは9つの交響曲を残しましたが、第7番は特にリズムが心に残る音楽で、まるで舞曲のように聞こえます。今日演奏される第2楽章は、ターン・タ・ターン・ターンというリズムが繰り返され、重たく立派な行進曲のように響きます。

